

本年度は、生成AIについての原稿を新たに加えました。生成AIが広く利用され、利用する弁護士も増えてきたことから、東京弁護士会が「弁護士業務における生成AIサービスの適正利用ガイドライン」を2025（令和7）年3月に施行し、日本弁護士連合会は「弁護士業務における生成AIの利活用等に関する注意事項」を2025（令和7）年9月に策定しました。①弁護士会が生成AIのリスクと対策を理解し、弁護士に周知する必要性というリスク対応の面と、②弁護士が生成AIの有用性を理解し、適切に利用することにより業務の質と効率性の向上を図るという業務改革の面の両面を考えていただくきっかけになれば幸いです。

本年度の政策合宿は、三浦海岸を臨むマホロバマインズ三浦で開催しました。海に見える開放的な雰囲気の中で、生成AIに加え、災害対策、人質司法打破と弁護人立会権、東弁の財政状況、法テラス、弁護士へのアクセス保障、憲法問題について、原稿を中心として2日間にわたり議論を交わしました。1日目の議論を終えて、懇親会で引き続き議論を交わし、夜遅くまで懇親を深めました。政策合宿を担当する法友会執行部の負担は決して少なくありませんが、準備に尽力くださる執行部メンバーにとっても、政策合宿での交流の機会は体験いただく価値があると思います。

私事ですが、法友会政策要綱の価値について、私自身が思い知ったのは東京弁護士会副会長選挙に立候補することを決め、選挙公報の原稿を書く必要に迫られたときでした。東京弁護士会の財政的課題について触れる必要があると考えましたがそのことについての知

識を持ち合わせていませんでした。その時、12月に発刊された政策要綱が必要な知識を全て教えてくれました。政策要綱の恩恵にあずかるのが法友会の会員だけかというところではないことも知りました。北海道弁護士連合会推薦の日弁連副会長の方と話す機会があり、その方は、日弁連副会長に就任するにあたって法友会政策要綱には大変にお世話になり、ありがたかったとおっしゃっていました。

末筆となりましたが、本政策要綱は、それぞれの項目についての知見を有する法友会会員の方々に執筆をお願いし、執筆いただいたものです。執筆者のみなさまに心より感謝申し上げます。石黒美幸幹事長、榊原一久政策委員長には、政策要綱策定部会における検討から政策合宿まで議論に加わっていただき、定めるべき方針を即座に決定いただきました。政策担当の副幹事長、事務次長のみなさまには、提出された原稿のチェックと、政策合宿の準備と運営に多大な尽力をいただきました。政策要綱担当の石部享士副幹事長と野口辰太郎事務次長、横井翔太事務次長には、政策要綱発刊までのスケジュールの策定、執筆依頼、原稿の提出状況の確認、政策合宿の準備と運営などの全般にわたり活躍いただきました。政策要綱が発刊にいたったのはみなさまの献身的なご尽力のおかげです。誠にありがとうございました。

2025（令和7）年10月

東京弁護士会 法友会
政策委員会 政策要綱策定部会 部会長 廣瀬 健一郎